

学校法人東海大学及び岡谷エレクトロニクス株式会社と ICTを活用した交通課題解決に向けた連携・協力に関する協定を締結しました

本市では、社会環境の変化などを踏まえた交通課題の解決に向けて、ICT(情報通信技術)を活用した交通量や人流等のデータの観測・分析・検証を行い、より効果的な交通施策の立案を目指しています。

この度、本市と学校法人東海大学(東京都渋谷区)及び岡谷エレクトロニクス株式会社(横浜市港北区)は、三者で連携し、市内交通課題の解決に向けたより効果的な ICT 技術の活用のため、協定を締結しましたのでお知らせします。

1 協定の概要

(1)名称

川崎市と学校法人東海大学及び岡谷エレクトロニクス株式会社との ICT を活用した交通課題解決に向けた連携・協力に関する協定

(2)締結日

令和8年3月13日

(3)連携事項

- ア ICT を活用した交通課題解決に向けたデータの収集、活用に関すること。
- イ ICT を活用した交通課題の把握に係る実証に関すること。
- ウ ICT を活用した交通課題解決に向けた検証に関すること。
- エ その他、ICT を活用した交通課題解決に関すること。

取組に当たっては、岡谷エレクトロニクス株式会社が各センサシステムの調達・設計・データ収集を行い、学校法人東海大学がデータの分析を行う等、本市の交通施策の検討・立案に向け連携していきます。

2 これまでの経過

- ・近年の ICT 技術の進展に伴い、交通分野においても今後益々その重要性が高まると考えられ、これまで ICT を活用した取組などについて、学識者や交通事業者等から構成される「川崎市地域公共交通活性化協議会(会長 東海大学梶田教授)」において必要な助言等を得ながら取組を推進
- ・これまで、東海大学(梶田研究室)は、各センサシステムの設計・データ収集等を行う岡谷エレクトロニクスと共に、先進的な ICT 技術を活用した交通に関するデータ取得について、本市の「道路インフラにおける実証フィールド提供」制度を活用し、技術の有効性を確認する研究を実施
- ・これまでの取組を踏まえ、今後、市内交通課題の解決に向けたより効果的な ICT 技術の活用のため、三者での連携協定を締結

3 協定に基づく主な連携協力の例

今後、センサ技術を活かした交通量調査や人流調査等を行い、データ分析・シミュレーション等により、混雑対策などの交通利用環境向上に取り組んでまいります。

実施予定の取組 ICT を活用したバス運行情報等に関する効果検証

- ・多様な手段での運行情報等の提供によりバスの利用環境を改善するため、武蔵小杉駅にデジタルサイネージを設置している。
- ・現地に複数センサ(LiDARセンサ^{ライダー}*・AI カメラ)を設置し、それらのシステムを連携させることで、単体のセンサでは取得できなかった情報を取得し、滞留時間計測データ等を活用したバス案内の効果や広告の視認性などについての検証を行い、利用者にとって、より効果的なサイネージによるバス運行情報等の提供について検討を行う。



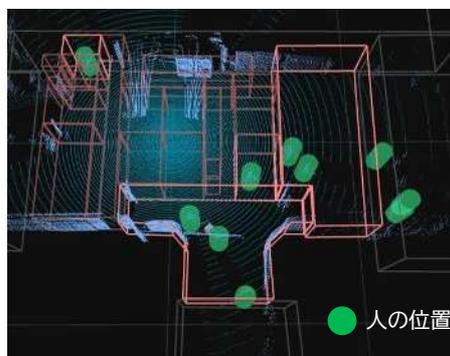
デジタルサイネージ（武蔵小杉駅）



LiDAR センサ設置イメージ

※LiDAR センサ…Light Detection and Ranging の略で、レーザー光で対象物までの距離を測定、周囲の状況をリアルタイムに3次元化するセンサ。

【イメージ LiDAR センサによるデータ取得】



問合せ先
川崎市まちづくり局交通政策室 小部
電話 044-200-2760